

令和3年度 さいたま市立春里中学校 学校関係者評価書

さいたま市立春里中学校
学校関係者評価委員長 原口 圭



1. 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 8名
(2) 実施回数 2回

2. 学校関係者評価 (学校関係者評価委員の意見等)

- ・コロナ禍の中、体育祭や合唱コンクールは中止も危ぶまれたが、延期での実施となった。どちらも保護者を入れずの実施と聞き、その点は残念であった。ただ、合唱コンクールについては個人情報に配慮した上で、後日の動画配信があった。保護者の方々が視聴することができ、コロナ禍に対応した学校の努力をみることができた。
- ・PTAと連携した、元プロ野球選手である奥村幸治氏を招聘しての『夢を与える講演会』の実施があった。生徒の進路への意識を向上させるためにも、実施いただいたことは有効と思われる。
- ・学校評価の保護者評価及び生徒評価の質問の中で、一つの質問の中に二つの質問が入ってしまっているものがあり、回答者が答えにくくなってしまっている。
- ・『あいさつをすることができるか』の質問に対する肯定的回答が、生徒、保護者とも9割を超えており、あいさつに対する意識が高いことがわかる。ただし、場所や場面によって、あいさつができなくなってしまうことが見受けられるため、例えば「校内」と「校外」におけるあいさつの様子を確認してもいいのではないか。
- ・『友人などに対して思いやりの気持ちをもって接することができるか』の質問に対する肯定的回答の高さから、多くの生徒が良好な人間関係を構築することができることが推察される。思春期の多感な年代でもあるので、家庭内の関わりが減少している可能性もある。家庭でのコミュニケーションの時間を質問してみてもどうか。
- ・生徒が地域とどのように関わっているのかを確認するため、地域の催し物への参加状況を質問してみてもどうか。
- ・知徳体の知徳に関する質問はあるのだが、体に関するものがない。例えば体力向上に関する質問があってもいいのではないか。

【学校関係者評価を受けた学校の対応】

- ・学校教育目標である「自ら学ぶ生徒 思いやりのある生徒 健やかな生徒」の具現化を目指し、各学年・教科会・校務分掌の各主任を中心に、計画的・組織的に教育活動を進めてきた。来年度は、市教育委員会から委嘱された『主権者教育』の発表があり、生徒によりよい社会を実現するための社会参画ができるような力をはぐくむ教育を実践していきたい。
- ・次年度もコロナ禍に応じた学校行事の運営など、学校としての工夫が求められることが想定される。学校に導入されている新しい校務端末を活用し、柔軟に対応していきたい。
- ・校内におけるICTを活用した教育の研究が進み、多くの教員がタブレット活用した授業を実践している。今後もよりよい活用方法を模索し、研究を積み重ねていきたい。
- ・学校評価の質問内容については、精査し、より詳細な実態を把握できるよう努めたい。その際は、これまでの経年変化を追うとともに、いたずらに質問を増加させないよう配慮したい。
- ・今年度途中で、生徒の欠席連絡を学校安心メールを活用したものに変更した。これによって、コロナ関係によって増大してしまった欠席者対応にも迅速に対応することができた。教職員の働き方改革は今後も推進していきたい。

さいたま市立春里中学校長

八戸 宏

